

# 住宅用遠赤外線式融雪装置

ロードヒーティングや融雪槽に代わる家庭用の融雪機器として、遠赤外線式融雪装置が静かな人気となっている。大規模な工事は不要で、導入コストが融雪槽などに比べて安いことが理由。メーカーや販売店は「特に高齢者にメリットのある商品で、今後商機も広がるはず」として、販売に力を入れていく考えだ。

(佐藤宏光)

雪で一面真っ白になった札幌市北区の住宅地で、遠赤外線式融雪装置を取り付けた一軒の民家の玄関先だけ、雪が消えていた。住民の女性(70)は「昨冬までは家の前は吹きだまりになり、除雪が大変だった。いい方法がないか探して、これに出合った」と効果に満足そうだった。

同装置は、ポールなどに取り付け、3メートルの高さから雪に遠赤

外線を照射すること  
で、雪の結晶を分解し  
て溶かす仕組み。ロー  
ドヒーティングや融雪  
槽のように路面を掘り  
返す大規模工事は不要  
で、工期も数日程度と  
短くて済む。

これまではコインパーキングや企業の事務所  
の駐車場など、主に  
事業用に使われてき  
た。同装置製造販売大  
手のユニ・ロッド(大  
阪)によると「ここ3  
年ほどで一般住宅への

## コスト抑え冬も快適

販売が少しずつ始めている(北海道営業所)という。

各社の主力タイプは出力4kwで車1台分、約12平方メートルの融雪が可能。照射方式なので、平地だけでなく段差がある階段などでも効果を発揮する。同タイプ

### 工事簡便 静かな人気

を含め、ロードヒーティングより大幅に安い40万〜50万円程度。電気料金は月1万円程度という。

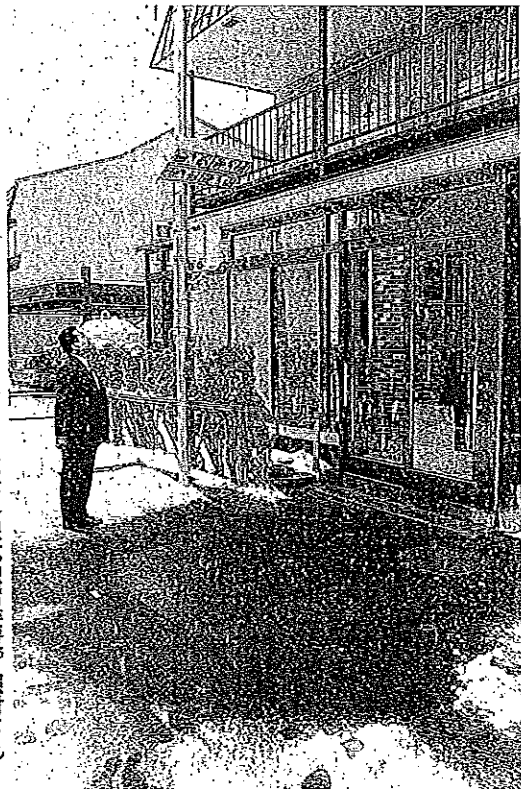
ユニ・ロッドの製品を取り扱う卸売業「YSE」(札幌市中央区)の安江真社長は「融雪機も取り扱っているが、雪を投入する作業がつかない高齢者もいる。年間6、7センチ積雪がある札幌で、販売が伸びる可能性はあ

る」と話す。冒頭の北区の民家に施工した環境関連業「エルコム」(札幌市北区、相馬督社長)は今年11月に自社製品「解けルモ」を開発した。出力1kwの遠赤外線ランプを分割した縦に並べたりするなど自由に配置でき

最近は一シーズン数万円で数度に行ったり敷地の排雪を行うサービ

スが普及しているが、エルコムの朝倉吉保取締役は「排雪サービ

スを利用するにも除雪は必要だ。問い合わせも増えつつある」と手応えを感じている。



エルコムが札幌市北区の民家に取り付けた遠赤外線式融雪装置。照射されたとみるだけ雪が消えている